

番号	事業名	所管部課	評価			改善内容									
			評価結果	評価の総括	総括の整理（項目別）	所管課として受け止めた課題	目指すべき姿	改善に向けた取組	指標	現状値	目標値	達成時期	2017年度取組実績	年度計画	
														2018年度	2019年度
5	地域高齢者支援事業	いきいき生活部高齢者福祉課	要改善	<p>改善の主な観点として、第一点目は、市民の方にまず知っていただくことが必要なので、周知方法を工夫していただきたい。市民の方に課題等を認識していただき、本事業を理解していただく必要がある。</p> <p>第二点目、見守り支援ネットワークについては民間のネットワークの状況と、コミュニティの特性を踏まえ施策を展開いただきたい。また、事業の枠組みについて、見守り支援ネットワーク事業、あんしんキーホルダー事業、認知症相談事業のそれぞれの取組についてつながりは直接ないとご説明いただいたが相乗効果を発揮できるよう検討願いたい。</p> <p>最後に、検討は難しいと思うが、アウトカムの指標、並びに適切な目標を再検討願いたい。</p>	<p>（1）市民の方にまず知っていただくことが必要なので、周知方法を工夫していただきたい。市民の方に課題等を認識していただき、本事業を理解していただく必要がある。</p>	<p>高齢者見守り支援ネットワーク及びあんしんキーホルダーのサービスを必要とする高齢者と、高齢者を支援する市民の双方に対し、事業内容を効果的に周知できている。</p> <p>事業の周知により、高齢者支援センターの認知度が高まり、高齢者支援センターに来た相談者に対し、その人に適した様々なサービスを紹介し、サービス利用に繋がることができている。</p>	<p>① 本事業の対象者だけでなく、小学生・中学生・高校生といった若い世代を含めた幅広い世代に見守り支援ネットワーク事業やあんしんキーホルダー事業が認知されるよう、事業の内容や課題等の効果的な周知方法を検討し、実施する。</p> <p>（例）現在実施している小中学校等を対象とした認知症サポーター養成講座のプログラムに、高齢者の見守り等についての内容を盛り込んで実施する。</p>	<p>① 効果的な周知方法の検討、周知の実施</p>	<p>① 広報まちだ、市のホームページ、各高齢者支援センターが作成したチラシ等による周知の実施</p>	<p>① より幅広い世代への周知の実施</p>	<p>① 2020年3月</p>	<p>① 効果的な周知方法の検討</p>	<p>①-ア 校長会等における認知症サポーター養成講座の周知</p> <p>①-イ 地域で開催するお祭り、催し物等における事業の周知に関する協力依頼</p>	<p>①-ア 小中学校等における認知症サポーター養成講座等を通じた事業の周知</p> <p>①-イ 地域で開催するお祭り、催し物等における事業の周知</p>	
					<p>（2）見守り支援ネットワークについては民間のネットワークの状況と、コミュニティの特性を踏まえ施策を展開する必要がある。また、事業の枠組みについて、見守り支援ネットワーク事業、あんしんキーホルダー事業、認知症相談事業のそれぞれの取組が、相乗効果を発揮できるよう検討が必要である。</p>	<p>市の関与がなく、地域住民自ら地域の高齢者の見守り活動を行っている地域団体の状況（団体数、規模、活動エリア等）を調査し、高齢者の見守りが行われていない空白の地域を把握する必要がある。</p>	<p>市内の高齢者の見守り活動の現状を把握し、高齢者の見守りが必要な地域に対して高齢者見守り支援ネットワークの構築に向けた支援ができていく。</p> <p>（例） ・高齢者見守り支援ネットワークを行っている自治会、町内会に対し、高齢者支援センター職員が、あんしんキーホルダー事業を説明し、町内会・自治会の中であんしんキーホルダーが普及するように推進している。 ・認知症相談事業において、高齢者支援センターの職員が相談者の認知症状に応じて、あんしんキーホルダーや、GPS事業（※1）等の利用を勧めている。</p> <p>※1 GPS事業 認知症高齢者が行方不明になった時、高齢者の現在位置を知らせ安全を確保し、ご家族等の精神的経済的負担を軽減させるサービス</p>	<p>① 高齢者見守り支援ネットワーク事業については、高齢者支援センターごとに高齢者の見守りを行っている地域団体や、高齢者の見守りが行われていない空白の地域など、高齢者の見守り活動状況の実態を調査し、データベース等に集約・整理する。そのうえで、高齢者見守り支援ネットワークの空白地域を解消するため、地域の特性に応じた支援方法を検討し、実施する。</p>	<p>① 高齢者支援センターごとの高齢者の見守り活動状況の実態調査、データベース等の整理、及び高齢者見守り支援ネットワークの構築に向けた支援の実施</p>	<p>① 見守りの空白地域へ的高齢者見守り支援ネットワークの構築に向けた支援の実施</p>	<p>① 2019年3月</p>	<p>①-イ -</p> <p>①-ウ -</p>	<p>①-ア 高齢者の見守り活動状況の実態調査の実施</p> <p>①-イ データベース等への集約・整理</p> <p>①-ウ 高齢者見守り支援ネットワークの構築に向けた支援の実施</p>	<p>①-ア - ※取組は継続実施</p> <p>①-イ -</p> <p>①-ウ - ※取組は継続実施</p>	
					<p>（3）見守り支援ネットワーク事業、あんしんキーホルダー事業、認知症相談事業におけるアウトカム指標、並びに適切な目標を再検討する必要がある。</p>	<p>各事業を適切に評価するアウトカム（成果）指標を設定する必要がある。</p>	<p>各事業ごとのアウトプット（行動）指標、アウトカム（成果）指標があり、定期的に事業の評価ができ、評価に応じて事業の改善等ができていく。</p>	<p>① 2018年度からスタートする第7期介護保険事業計画において、各事業のアウトプット（行動）指標として、「キーホルダーの新規登録者数」等を設定した。また、各事業の上位にある基本施策、基本目標のアウトカム（成果）指標として「在宅維持率」「高齢者支援センターの所在地認知度」「もの忘れが多いと感じるうち、高齢者支援センターを知っている人の割合」を設定した。本計画において設定したアウトプット（行動）指標、アウトカム（成果）指標により、地域高齢者支援事業の進捗評価を行う。</p>	<p>① 設定した指標による事業の進捗評価の実施</p>	<p>① -</p>	<p>① 2019年3月</p>	<p>① -</p>	<p>① 設定した指標による事業の進捗評価の実施</p>	<p>① 2021年度に改定予定の第8期介護保険事業計画策定に向けた、アウトカム（成果）指標の振り返り</p>	